

閉会挨拶

エリアマネジメントシンポジウム 2016 in 名古屋 実行委員会副委員長 小林 重敬氏

今日はこのように多数の方にお集まりいただきましてありがとうございます。先ほどのトークセッションに参加された飯田市には、10 数年前に「エリアマネジメント」という本に寄稿していただきました。

その寄稿の前に横浜でシンポジウムをやりまして、飯田市と地方都市を含めて色々な方に参加いただいて、それをまとめたのが 10 数年前に出した「エリアマネジメント」という本です。ただその時は、その本を出してもあまり関心をもたれませんでした。

それから 10 数年たって、去年、「最新エリアマネジメント」という本を出したところ、その前後を含めてこのような大きな組織になり皆様から関心をもたれるようになりました。今昔の差が大きくて若干びっくりしているところです。

そのような形で進めてきたエリアマネジメントの活動ですけれども、リレーシンポジウムを 3 回やりましたが、実はこのリレーシンポジウムの前に、丸の内では私がずっと関わってきたエリアマネジメント協会と、エコツェリアという環境に注目したエリアマネジメント組織の 2 つの組織が中心となって、まちづくりサロンというのを開いてきました。数年前、そのサロンにいろいろな方に来ていただいてその度に議論するというのを繰り返してまいりました。東京でのシンポジウムに 200 人ほど集まっていたら、それを重ねていくうちに、そこにいろいろな地方の方が参加していただいているので、東京以外の都市でもやるべきではないだろうかと思い、最初にやっていただいたのが実は名古屋でした。

その後大阪に展開していった経緯があります。名古屋、大阪、さらに東京と繰り返すうちに、200、300、400 という方々がシンポジウムに集まってくくださるようになり、色々な方に登場していただいて、そのような成果を最新エリアマネジメントという形でまとめさせていただいたのが最近出た本でございます。

そういう意味で名古屋はエリアマネジメント活動の一つのきっかけ作りをしてくれた街だと私は思っています。先ほど登場された名古屋駅地区街づくり協議会は発足時から私もかなり関わっておりまして、先ほど保井さんから参加・協働・自立というストーリーがありましたけれども、実は名古屋駅前地区まちづくり協議会は最初から自立していました。

私が協議会の委員会などに関わり、行政もかかわる必要がるのではないかと行っていましたが、最近やっと行政が入ってきてくださり、名古屋駅周辺地区協議会と、新たに名古屋市の行政としての委員会開かれ、官と民が協働してまちづくりを検討するというベースができてきました、それが名古屋駅前地区です。

そのような動きの中で、名古屋のもう一つの中心部である栄地区の街づくりはどうなんだという議論があり、栄の街づくりの検討もそれではやらなければという議論がありました。さらに錦二丁目にも私は何回かお伺いさせていただき、最初から大変関心をもって見ていました。それから今日、豊田のお話を聞きましたが、大変興味深い内容でした。

なぜシンポジウムにこんなに多くの方々が集まるのかというと、シンポジウムをやるたびにここに集まって聞かないと聞けないようなお話が聞ける貴重な会だということです。こういう会を全国エリアマネジメントネットワークで定期的に、必要であればそれぞれの地域に出向いてシンポジウ

ムや意見交換を行いたいと思います。

先ほど御手洗さんの講演で最後に難しい言葉が出ました。橋渡し型社会関係資本、もう一つの言葉に、結束型社会関係資本というものがあります。

結束型社会関係資本というのは内に固まってしまい外に開かない。日本の中心市街地活性化がうまくいかないのは、従来街中にあった商店街の方々が中に閉じこもって結束してやろうとするからうまくいかない。

オープンに色々な意見や話を聞いて人を引きこみマネジメントをやっていくという形にならないと、エリアマネジメント、中心市街地活性化、大都市の中心部活性化はうまくいかないのです。

そしてそのためにも全国エリアマネジメントネットワークに参加いただいて、ある意味で橋渡し型社会関係資本を皆さんで構築していく機会になればありがたいなと思っています。ありがとうございました。